

書籍『時間と言語』 嶋田珠巳・鍛治広真 編著 (2021年1月) 三省堂

第1回から第8回までの時間言語フォーラムの講演・議論の内容を中心に、時間と言語に関する哲学・言語学・神経科学の論考を書籍として発表した。掲載された論考は下記の通りである。

- 第1章 「時間と言語」に関する基礎的考察 (嶋田珠巳)
- 第2章 時間の流れの科学——患者さんの内観からわかること (河村満・越智隆太・花塚優貴・二村明德・緑川晶)
- 第3章 日本語時間名詞の構造 (田窪行則)
- 第4章 中国語時間詞の空間性——〈過去〉と〈未来〉の空間メタファー (木村英樹)
- 第5章 指示と時間——トルコ語の指示詞 *şu* を手がかりとして (林徹)
- 第6章 エピソード記憶と言語——タイプからトークンへ (青山拓央)
- 第7章 形而上学的時間論の一方法論としての言語と理論——メタ形而上学的観点から (小山虎)
- 第8章 演算子の作用域から見た日本語の時制解釈 (中村ちどり)
- 第9章 理由節構文の曖昧性と時間順序 (西山佑司)
- 第10章 因果関係と時間——「原因」「結果」を主名詞とする連体修飾節を中心に (有田節子)
- 第11章 選択体系機能理論の観点から見た英語の時制——ハリデーの解釈とマティソンの細密化 (越智綾子)
- 第12章 時間の言語的意味のコーパス化——日本語テンス・アスペクト表現理解過程解明に向けて (吉本啓)
- 第13章 ティンリン語のテンスとアスペクト、時間表現 (大角翠)
- 第14章 時間語彙の対照研究——時間語彙類型論にむけて (鍛治広真・佐々木文彦・嶋田珠巳)